

平成 22 年度第 2 回協議会以降の経過報告

平成 23 年 2 月 14 日

長洲・荒尾地域公共交通活性化協議会事務局

<目 次>

1. 平成 22 年度第 2 回協議会以降の経過報告	1
1) 地域公共交通体系の見直し方針の決定（平成 22 年第 2 回協議会の議事結果）	1
2) 地域公共交通体系の見直し案の選定	1
(1) 地域公共交通体系の見直し案の選定の流れ	1
(2) 住民座談会などの住民意見	5
(3) 地域公共交通体系の見直し案の導出	5
(4) 見直し案の運行経費比較	8
(5) 地域公共交通体系の見直し案の選定	8

1. 平成 22 年度第 2 回協議会以降の経過報告

1) 地域公共交通体系の見直し方針の決定（平成 22 年第 2 回協議会の議事結果）

第 2 回長洲・荒尾地域公共交通活性化協議会において、住民移動調査結果等から示した地域公共交通体系の見直し方針（案）および財政負担が高い健康福祉センター環状線と長洲・荒尾環状線（以下「課題 2 路線」と略）の見直し案 A~C（3 ページ参照）について検討することが決定した。

2) 地域公共交通体系の見直し案の選定

(1) 地域公共交通体系の見直し案の選定の流れ

・地域公共交通体系の見直し案の選定の流れにあたっては、下図のとおり、まず住民座談会などでの住民意見を踏まえ、見直し案 A~Cの中から 1 案を導出し、その 1 案と課題 2 路線の運行経費を単年と複数年（10 年間）で比較した上で、選定する。

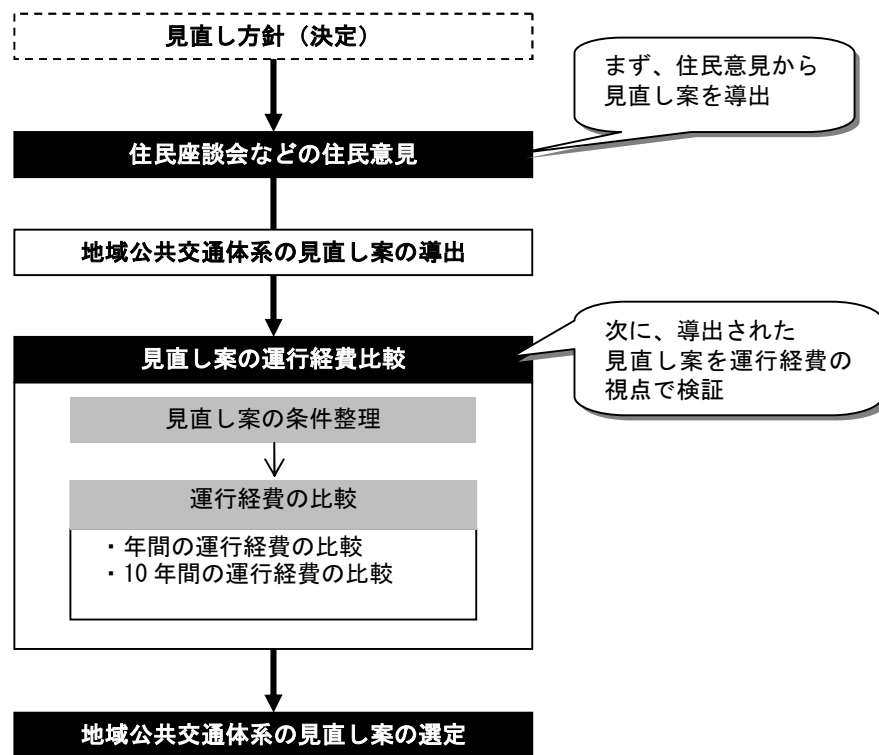


図 地域公共交通体系の見直し案の選定の流れ

【基本方針（案）たたき台】

地域が協働し、財政負担の抑制に配慮しつつ、自家用車による移動手段を持たない人の移動を優先的に確保する地域公共交通体系の構築をめざす

基本方針① 地域公共交通の見直しによる維持・確保

- 地域公共交通が必要な人の移動手段確保を優先する
- *利用の多い自家用車通勤者の地域公共交通への転換は長期的に取り組む
- 財政負担が高く利用の少ない路線を対象に地域に望まれる地域公共交通体系に見直す
- 見直しにあたっては、地域住民の意見を聞きながら（協働して）運行方法などを見直す

基本方針② 財政負担の抑制

- 地域公共交通体系の見直しにあたっては過度な投資を防ぎ、財政負担の抑制を図る

【地域公共交通体系の見直し方針（案）】

見直し方針① 財政負担が重く利用者数の少ない2路線を見直す（採算性の高い路線は基幹的な路線に位置づける）

- 財政負担が重く利用者数の少ない「健康福祉センター循環線」、「荒尾・長洲循環線」を見直す
- 採算性の高い「玉名合同庁舎～荒尾産交前線」、「山の手・牛水線」は基幹的な路線に位置付け

見直し方針② 地域公共交通を必要とする高齢者などの移動制約者の移動実態に合わせる

- 高齢者の主な移動目的である「買い物」、「通院」の移動先、移動時間にできるだけ合わせる

見直し方針③ 採算性の高い路線や他モードとの接続に配慮し、利便性を高める

- 採算性の高い2路線との接続場所や時間を考慮する

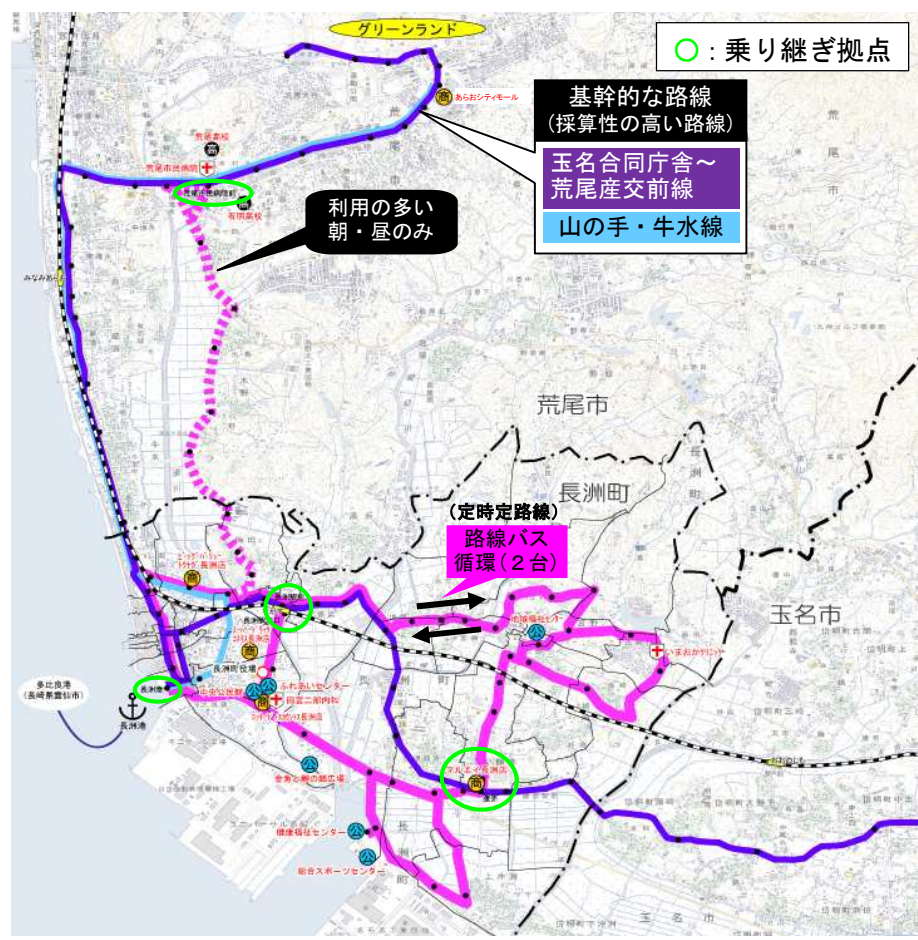
見直し方針④ 財政負担に配慮して、過大な投資にならないネットワーク構成及び運行方法を選択する

- 基本的に現行の運行ルートを確認することとし、投入する車両も燃料面等を考慮し、小型車両の導入を検討する
- 新たな運行システムについては、定時定路線乗合タクシーとフルデマンド（区域運行）を基本に検討する

見直し案A 路線バス運行（路線定期）

◎既存路線（循環線）をベース

- ・既存路線をベースとした路線定期：路線バス運行
- ・1便あたり利用者数の多い長洲・荒尾環状線をベースとしたルートを2台で循環運行し、運行本数を増加（健康福祉センター環状線の廃止）
- ・長洲駅前～荒尾市民病院間は循環ではなく往復ルートに変更。同区間は利用の多い朝、昼のみ運行
- ・なお、小型バス車両の投入を検討する



見直し案B 路線バス運行：中心部線（路線定期）
＋乗合タクシー（路線定期）

◎既存路線のうち利用の多い中心部区間は路線バス運行

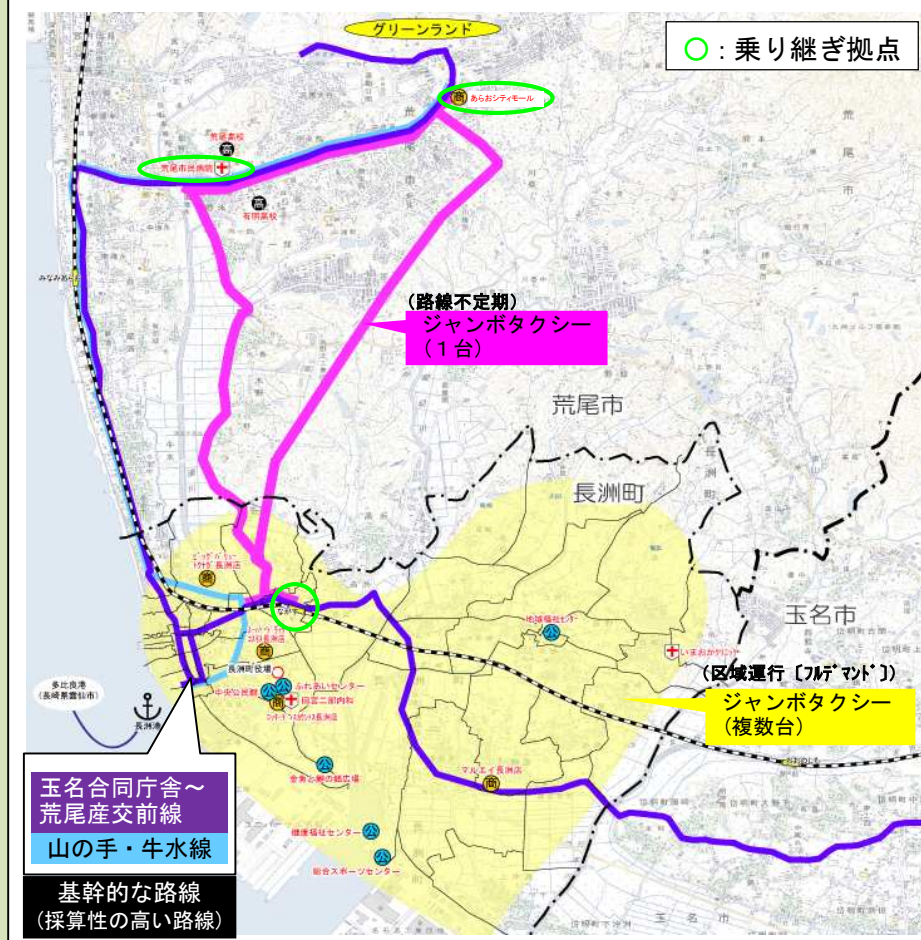
- ・路線定期：路線バス運行
- ・長洲駅前～長洲駅南口を1台で往復運行
- ・長洲駅前～荒尾市民病院間は循環ではなく往復ルートに変更。同区間は利用の多い朝、昼のみ運行
- ・運行を1台とすることでデマンド運行の費用をねん出
- ◎利用の少ない六栄校区、腹赤校区は定時定路線乗合タクシーに変更
- ・路線定期：六栄ルート、腹赤ルートのジャンボタクシー程度計2台で運行
- ・上記の中心部線、採算性の高い2路線との乗継を考慮
- ・利用状況に応じて、路線不定期（運行時間は特定するが、予約があったときのみ運行）とすることで効率化を図ることも考えられる



見直し案C 予約型デマンド運行（区域運行・フルデマンド）
＋予約型デマンド運行（路線不定期）

◎既存路線を廃止し、長洲町内は予約型デマンド（区域運行）

- ・予約型デマンド運行（区域運行・フルデマンド）
- ・運行台数は複数台が想定される
- ◎長洲駅～荒尾市域は予約型デマンド運行（路線不定期）に変更
- ・長洲町域の拠点（JR長洲駅北口）と、利用の多い荒尾市域の施設（あらおシティモール、荒尾市民病院）間を結ぶ路線不定期（予約時運行）：ジャンボタクシー程度1台で予約があった場合のみ運行。
- ・乗降はJR長洲駅、あらおシティモール、荒尾市民病院の3箇所のみで可とする
- ・長洲町域の予約型デマンド運行とはJR長洲駅北口で乗り継ぎ



地域公共交通体系の見直し案（たたき台）

*見直し案について、運行事業者や運行車両・台数、運行ルート、運行時間・運行本数（運行ダイヤ）、運行費用、乗り継ぎ拠点などは今後精査を図る。

(2) 住民座談会などの住民意見

- ・第2回長洲・荒尾地域公共交通活性化協議会後に長洲町内の4校区で開催した住民座談会において、見直し案A～Cに関する意見交換を行った結果、C案を支持する意見や循環バスの維持を求める意見があったものの、1案を導出するには至らなかった。
- ・住民座談会では、公共交通を必要とする方が多いと想定される老人会などで意見収集をした方が良いとの意見があった。見直し案A～Cを導出する基礎データとして活用した住民移動調査の回答者のうち、高齢者は約3割であり、長洲町の高齢者の意見を反映した見直し案であるものの、老人会及び健康福祉センター利用者にヒアリング調査を実施した。
- ・老人会等ヒアリングの結果、回答者の約86%がC案が良いとの回答であった。

第2回協議会 【H22. 10. 13】

○地域公共交通体系の見直し方針（案）及び見直し3案（A～C案）について承認。

住民移動調査の回答者のうち、65歳以上の高齢者の割合は約3割と高齢者の意向も反映した見直し案となっている

第1回住民座談会 【H22. 10. 29】

* 全4校区計198名参加

○C案を支持する声があったものの、各校区とも3案に対する明確な意向はみられなかった。
○老人会などで高齢者の意見を収集する必要があるとの指摘が複数あった。

老人会等ヒアリング 【H22. 10. 29～11. 24】

* 計217名参加

○C案が良いとする意向が約86%。

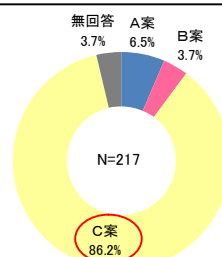


図 見直し3案に対する意向
注. 老人会等ヒアリング結果

図 住民意見の収集結果

(3) 地域公共交通体系の見直し案の導出

- ・住民座談会および老人会等ヒアリング結果では回答者の約86%がC案を支持していることを踏まえ、地域公共交通体系の見直しはC案（区域運行）で検討する。

参考) 第1回住民座談会の結果と主な意見

- 見直し3案について、C案や循環バスの維持を求める意見があったものの、各校区別に3案に対する明確な意向はみられなかった。
- ・具体的には、「見直し3案への意向」について、C案に賛同する意見が1件（公共交通不便地域内の居住者）あった一方で、循環バスを維持し、交通空白地域から循環バスに接続する交通の投入に関する意見も1件あるなど、「交通不便地域をどのようにカバーするか」の視点から意見が挙げられた。
- ・見直し案に対する個別の質問や意見として、「運賃（4件）」や「運行ルート（3件）」、「運行主体（2件）」、「関係機関との連携必要性の指摘（2件）」、「今後の財政支出に関する町への質問（1件）」、「路線バスの車両サイズへの意見（1件）」、「町内の商業関係者への影響に関する意見（1件）」があった。
- また、住民座談会以外に、公共交通を必要とする人が多いと想定される老人会などにおける意見収集を指摘する意見（2件）もあった。
- その他、「九州新幹線開通に伴う特急電車への影響に関する意見（1件）」などについて意見等が出された。

表 各校区から出された主な住民意見と事務局の回答

校区〔住民参加人数〕 日時・場所	住民からの意見	事務局の回答
腹赤校区〔64名〕 *10月25日(月) 19:00~20:30 於:腹赤保育所	○これまで路線バスが満席になっているのを見たことがない。小さい車両で良いので効率的で利用しやすいバスを導入して欲しい。上沖洲やJA、マルエイなど主要施設を通る運行ルートがあると良い。 ○65歳以上の住民に対して意見収集をして欲しい。老人会としても協力できることはしたい。 ○九州新幹線の開通により長洲町から特急電車がなくなることを懸念している。住民としても署名活動などの要請が町からあれば積極的に対応したい。	○運行ルートの具体案についても意見を出して欲しい。次回の住民座談会では運行ルートの提示も行う。 ○老人会にも出向いて意見収集を行いたい。 ○周辺市町と合同で特急電車存続に関する要望書を出すなど、これまで出来ることはやってきた。現時点ではJRの回答を待つのみである。
長洲校区〔59名〕 *10月26日(火) 19:00~20:30 於:町民研修センター	○八女市のデマンド交通のニュースを先日見た。運賃は300円程度徴収しているようだが、見直し3案の運賃についてどう考えているか。 ○公共交通利用者は通院や買い物目的が主だと考えるが、老人ホームやデイサービスの車両を活用することも考えられる。 ○3案を運行する事業者は具体的に決まっているのか。 ○A案やB案は定期運行であり、通勤や通学など決まった時間帯に移動したい住民が多いと考える。一方で、C案は「乗りたい」と思った時間帯に利用できるが、どのような住民の利用を想定しているか。	○八女市には協議会の事務局のほか、地区代表とともに視察に行った。運賃の検討はまだしていない。なお、住民アンケートでは300~400円の回答が多かった。 ○連携の可能性について検討したい。 ○A案は産交バスになるだろう。B案やC案のジャンボタクシーの運行については、例えば八女市ではタクシー事業者も参入している。 ○C案は車を持っておらずに買い物や通院をする人が中心になるだろう。
六栄校区〔68名〕 *10月28日(木) 19:00~20:30 於:地域福祉センター	○路線バスが運行している地域の住民は、例えば荒尾市民病院まで比較的安価で移動できるが、葛輪や赤田などの地区には路線バスが運行していない。よって、C案が良いと考える。 ○利用料金については、どうなるのか。 ○移動手段がない住民が困っているのは荒尾市民病院とあらおシティモールへの移動だと考えており、交通手段の確保が必要である。また、長洲町内の移動においては、循環バスの運行も必要である。校区内の鷺巣や葛輪など公共交通が不便な地域については、循環バスの最寄りバス停まで送迎するサービスも考えることが	○参考にしたい。 ○見直し案の運賃は未検討であるが、住民アンケートでは運賃として300~400円を希望している方が多い。運賃設定は住民座談会や協議会をとおして導出された1案に絞って検討したい。 ○参考にしたい。

校区〔住民参加人数〕 日時・場所	住民からの意見	事務局の回答
	<p>できる。見直し3案の最大公約数的な発想も必要である。</p> <p>○運賃について例えば1ヶ月1,000円などの定額制にすることでお年寄りの外出機会を増やすなど福祉の視点で公共交通を考えることも重要である。</p> <p>○見直し案については、車を持っていない人や老人会、施設利用者などに絞って意見を聞きに行った方が良い。</p> <p>○海老屋潮湯センターに通に2回行けるような路線バスがあると良い。</p> <p>○長洲町からJRで福岡市まで通勤している。自宅と長洲駅間の移動はマイカーを利用して、駅前の駐車場に止めて、JRを利用している。飲酒する日には家族に送迎してもらっている。海老屋潮湯センターに行く人だけが公共交通の対象ではない。町内には街灯が少なく、中学生などが夜間に帰宅する時などに危険である。交通弱者への対策は優先的に講じるべきであるが、それ以外の人達も将来的には対象とするべきであり、最終的には公共交通の運営で利益が出せる仕組みをつくらない限りは持続的な公共交通の運営は困難である。今日の参加者の皆さんに聞きたいが、「最大いくらならバスに乗りたいか」を手元の意見書に記入して事務局に伝えて欲しい。</p> <p>○町は1,500万円の支出を減らしたいという考えでよいのか。利用者の増加と財政負担の軽減を目指して欲しい。</p> <p>○路線バスであらおシティモールまで行けるようにすると、町内で買い物する人が減るのではないかと心配している。</p>	<p>○参考にしたい。</p> <p>○路線バスへの乗り込み調査や老人会への聞き取り調査などを今後行っていきたい。</p> <p>○参考にしたい。</p> <p>○配布した意見書に最大で支払える運賃や意見等を記入して提出して欲しい。</p> <p>○多くの方に利用してもらえる公共交通を優先的に考えたい。財政支出額は現状維持を目指しており、財政負担の軽減はその次と考えている。</p> <p>○町内の商業関係者については、希望商品を受け付けて、自宅まで宅配するなど地域に密着した事業展開なども考えられる。</p>
<p>清里校区〔40名〕</p> <p>*10月29日(金) 19:00~20:30 於:清里小学校</p>	<p>○見直し3案は全て同じ運賃と考えて良いのか。</p> <p>○有明成仁病院に勤めている。病院には送迎バスがあるものの、面会者は使えないことからタクシーで来る方がほとんどである。路線バスがあると良いが、それが可能なのはC案か。</p> <p>○運行主体は考えているのか。</p> <p>○医療体制とも絡んでくると思う。安心して住めるような環境づくりに向けて、検討を進めて欲しい。</p>	<p>○運賃の検討はまだしていない。なお、住民アンケートでは300~400円の回答が多かった。</p> <p>○C案は可能である。しかし、B案であっても、運行経費の削減分を活用して交通空白地域への公共交通の運行を行うことも考えられる。また、A案もルート変更などで対応できる部分もある。どのようなルートが良いかの意見を出して欲しい。</p> <p>○これから検討する。</p> <p>○配布した意見書を使って皆さんのご意見をお願いしたい。</p>

(4) 見直し案の運行経費比較

①見直し案の条件整理

- ・見直し案として導出されたC案と課題2路線の運行経費を比較する。
- ・C案のサービス水準を「平日のみ運行、1日8便」とした。
- ・なお、C案は利便性の観点から区域運行型として一体的に運行する案に変更した。

表 比較する地域公共交通体系の見直し案

	運行の考え方	運行手法	運行車両等	運行条件
課題2路線	・町内の循環線及び町内と荒尾市南部を含めた循環線	路線バス運行 (路線定期) 【町内循環】 【町内循環＋ 荒尾市民病院】	小型バス (25人乗) 計2台	○健福線(毎日運行) ・平日8便、 土日祝6便運行 ○荒長線(平日運行) ・1日4便
C案	・町内全域と利用の多い荒尾市の特定施設を対象として、発着地選択の自由度が比較的高いフルデマンドシステムで運行	フルデマンド運行 (区域運行) 【町内全域等】	ワゴン車 (8人乗) 計2台	・平日のみ運行 ・1日8便運行

注. 課題2路線…健康福祉センター環状線(健福線)、長洲・荒尾環状線(長荒線)を指す

②運行経費の比較

ア) 年間の運行経費の比較

- ・課題2路線とC案の運行経費について比較した結果、課題2路線よりC案が低い。

表 年間の運行経費の比較〔単位：万円/年〕

運行案	運行経費	備考
課題2路線	1,677.9	実績値(H21.10-H22.9)
C案	1,597.7	想定値(H24年:1年間)

イ) 10年間の運行経費の比較

- ・10年間の運行経費を比較した結果、課題2路線よりC案が低い。

表 10年間の運行経費の比較

単位:万円

	計	年平均	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	備考
			6か月間	1年間	1年間	1年間	1年間	1年間	1年間	1年間	1年間	1年間	
課題2路線	15,940.1	1,594.0	839.0	1,677.9	1,677.9	1,677.9	1,677.9	1,677.9	1,677.9	1,677.9	1,677.9	1,677.9	実績値 (H21.10-H22.9)
C案	14,715.7	1,471.5	896.4	1,597.7	1,597.7	1,597.7	1,597.7	1,517.7	1,477.7	1,477.7	1,477.7	1,477.7	想定値

注. 課題2路線のH23年度は、H24年度の運行経費÷2

(5) 地域公共交通体系の見直し案の選定

- ・上記の検討より、住民座談会および老人会等ヒアリング結果では回答者の約86%がC案を支持しており、運行経費が課題2路線より低いことを踏まえ、地域公共交通体系の見直しはC案(区域運行)が選定された。